

フォト&スケッチ展 2017 入賞作品結果発表・作品展開催

UR都市機構（独立行政法人都市再生機構）では、以下の2つの「フォト&スケッチ展」を開催し、全国から合計で約1,300件となる過去最多のご応募を頂きました。この度、受賞作品を選出しましたので発表いたします。

また、あわせて作品展を開催しますのでお知らせいたします。（詳細は別紙）

◆UR賃貸住宅『暮らしと。』フォト&スケッチ展 2017◆

団地ならではの暮らしの魅力を、居住されている方々や地域にお住まいの方々と共有することを目的した、写真・スケッチの公募展



【暮らしと。フォト大賞】



【団地景観 スケッチ大賞】

◆東日本大震災 復興フォト&スケッチ展 2017◆

復興への歩みを広く発信し、東日本大震災からの一日も早い復興を支援することを目的とした、復興に関する写真・スケッチの公募展



【復興の歩み大賞（フォト）】



【復興の歩み大賞（スケッチ）】

お問い合わせは下記へお願いします。

本社 広報室 報道担当

（電話）045-650-0887

1 入賞作品数

- ・UR賃貸住宅『暮らしと。』フォト&スケッチ展
大賞4作品、優秀賞7作品、入賞17作品（応募数957作品）
- ・東日本大震災 復興フォト&スケッチ展
大賞2作品、復興のあゆみ賞6作品、入賞15作品（応募数375作品）

2 作品展の開催予定

①「UR賃貸住宅『暮らしと。』フォト&スケッチ展」

及び「東日本大震災 復興フォト&スケッチ展」

日程：平成30年2月中旬頃

場所：三越前駅地下コンコースを予定

②「東日本大震災 復興フォト&スケッチ展 2017」

・福島県会場

日程：平成30年3月5日（月）～3月9日（金）

場所：コラッセふくしま1階アトリウム（福島県福島市）

・岩手県会場

日程：平成30年3月9日（金）～3月11日（日）


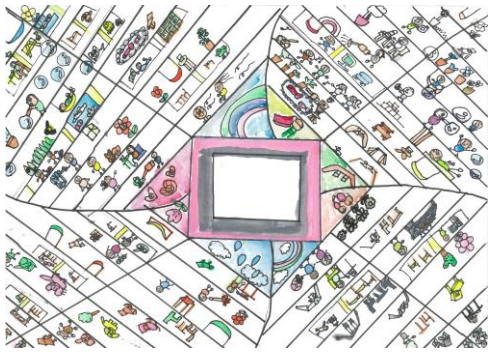
場所：アイーナいわて県民情報交流センター4階県民プラザ（岩手県盛岡市）

・宮城県会場

日程：平成30年3月9日（金）～3月11日（日）



場所：AER2階アトリウム（宮城県仙台市）

「UR賃貸住宅『暮らしと。』フォト&スケッチ展 2017」概要

名称	UR賃貸住宅『暮らしと。』フォト&スケッチ展 2017	
主催	独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）	
後援	国土交通省	
目的	団地ならではの暮らしの魅力を、居住されている方々や地域にお住まいの方々と共有するため	
テーマ	あなたが見つけたUR賃貸住宅らしさ、四季折々の暮らしや団地の情景を、写真やスケッチで教えてください。	
応募作品数	957 作品（プロの応募は不可）	
審査員	池邊 このみ（ランドスケーププランナー）／池本 洋一（SUUMO 編集長）／ 一之瀬ちひろ（写真家）／キン・シオタニ（イラストレーター・文筆家）／ 西田 司（建築家） （敬称略）	
選定方法	審査員及びUR都市機構職員等による審査により決定	
大賞作品	<p>暮らしと。フォト大賞</p>  <p>「大々大々家族」新下関（山口県）</p>	<p>【審査員のコメント】</p> <p>大きな家族、生まれる前からの友達、世代を超えた兄弟のような仲良し。現代社会にあってうらやましい子供のコミュニティは、UR 団地が育ててきた素晴らしい財産です。その情景の一コマをとらえたほほえましい作品です。公園に来ればいつも誰かに会える、そんな関係を示した作品は暮らし大賞としてふさわしいものです。</p>
	<p>暮らしと。スケッチ大賞</p>  <p>「楽しいワクワク UR」幕張ベイトウン パティオス七番街（千葉県）</p>	<p>【審査員のコメント】</p> <p>なんてワクワクする構図の絵なんだ。と思わず唸ったスケッチ。団地の暮らしは画一的と思われがちだけど、ベランダ越しに見える向こうや隣の風景は、友達がいたり、魚がいたり、ブランコがあったりと、画面いっぱいに魅力的な暮らしが描かれている。10歳のデザイナーが日々思い描いている絵に、団地暮らしの楽しさや視点の広がりを感じ、スケッチ大賞とした。</p>

	<p>団地景観 フォト大賞</p>  <p>「夕景」北砂五丁目（東京都）</p>	<p>【審査員のコメント】</p> <p>「一番きれいな色ってなんだろう？」で始まる歌は「GIFT」だっただろうか？整然と立ち並ぶ団地は時に単調に見える。だが玄関扉 1 枚ごとに「きれいな色」を加えるだけでこんなにも個性的になるとは。空がオレンジから紫に変わるマジックアワーに浮かびあがる 1 枚は、凜とした団地の美を表現した GIFT 的作品だ。</p>
	<p>団地景観 スケッチ大賞</p>  <p>「ワンダーランド」館ヶ丘（東京都）</p>	<p>【審査員のコメント】</p> <p>躍動感あふれるとはまさにこの絵のことですね。画力も構図もすばらしい。単に写実的にならずに、空を飛んでいたたり、恐竜が笑っていたり、猫が寝ていたりと、絵を見るたびに発見があり、公園で遊ぶ子供たちの声が聞こえてきそうです。「Tategaoka」と入っているところも地元愛を感じました。</p>
<p>その他、優秀賞（7点）、入賞（17点）を選定</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日</p> <p>平成 29 年 12 月 25 日</p> <p>平成 30 年 2 月中旬（予定）～</p>	<p>作品募集期間</p> <p>受賞作品発表</p> <p>作品展</p>
<p>ホームページ</p>	<p>http://www.ur-net.go.jp/urbandesign/sumit/contest2017/result/index.html</p>	

「東日本大震災 復興フォト&スケッチ展 2017」概要

名称	東日本大震災 復興フォト&スケッチ展 2017	
主催	独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）	
後援	国土交通省、復興庁	
目的	復興への歩みを広く発信し、東日本大震災からの一日も早い復興を支援するため	
テーマ	「復興の歩み ～忘れない、明日へ進む～」 新たな住まいでの生活や、なりわい再建の様子、まちづくりの現場、まちに戻りつつある活気、震災後も変わらない四季折々の風景など、皆さんが復興を感じる場面についての写真又はスケッチ	
応募作品数	375 作品（プロの応募は不可）	
審査員	池邊 このみ（ランドスケーププランナー）／池本 洋一（SUUMO 編集長）／ 一之瀬ちひろ（写真家）／キン・シオタニ（イラストレーター・文筆家）／ 西田 司（建築家） （敬称略）	
選定方法	審査員及びUR都市機構職員等による審査により決定	
大賞作品	<p>復興の歩み大賞（フォト）</p>  <p>「再会」 宮城県仙台市</p>	<p>【審査員のコメント】</p> <p>何気ない黒板に書かれた文字に目をとめてシャッターを押したであろう一枚。再会というタイトルの表すように、震災が止めた時間を動かしていたのは、入れ替わりこの場所にきてメッセージを書いた子ども達だ。斜光の効果も相まり、そこに積み重ねられた時間の余韻を想像させ、積み重ねられた時間の奥行きを感じた。</p>
	<p>復興の歩み大賞（スケッチ）</p>  <p>「共に歩む」 宮城県石巻市</p>	<p>【審査員のコメント】</p> <p>出展作品の中で唯一の油彩画で、街に古くからある観慶丸商店の重厚な佇まいを、「震災後に修復工事をへて、石巻の文化の発信拠点として頼もしく思える」という作者のコメントがよく表れている作品だと思いました。僕はこの場所を知らなかったのですが、この作品を見て、実際に行ってみたくなりました。</p>
	<p>その他復興の歩み賞（6点）、入賞（15点）を選定</p>	
スケジュール	平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日	作品募集期間
	平成 29 年 12 月 25 日	受賞作品発表
	平成 30 年 2 月中旬（予定）～	作品展
ホームページ	http://www.ur-net.go.jp/fukkou-photosketch/contest2017/result/index.html	